



平成 26 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 三菱重工業株式会社
代 表 者 取締役社長 宮永 俊一
(コード番号 7011)
上場取引所 東 名 福 札
問合せ責任者 グループ戦略推進室
広報部長 齊藤 啓介
(TEL03-6716-3111)

客船事業における特別損失計上に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、客船事業における特別損失を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 損失発生の原因について

平成 23 年 11 月に受注したアイーダ・クルーズ向け大型クルーズ客船 2 隻については、プロトタイプ of 客船建造の困難さが顕在化し、またホテルパート等の設計作業が膨大となり、更には大幅な設計変更により、設計作業の遅延が生じました。このことが設計費の増加のみならず、その後の資材調達や建造工程などに悪影響を及ぼし、コスト悪化に繋がり、多額の工事損失の発生が見込まれることとなったため、平成 26 年 3 月期連結決算において、64,126 百万円を引当計上いたしました。

客船建造に関しては、本年 3 月に新たなプロジェクトマネジメント体制を組成して工事遂行してきましたが、当年度に入って、客先とともに本船の先進的な要求仕様を確認・追求していく中で、パブリックエリアやホテルパート等の総合配置や関連付帯設備において、設計の基礎に立ち戻る事象が発生し、これらの対応において設計作業のやり直しが大量に生じたことにより、設計作業が大幅に遅れることとなりました。

設計リソースを追加投入するなど対策を推進してきましたが、当第 2 四半期に入り、出図完了が想定より遅延することが見込まれ、1 番船の建造工程の見直しを余儀なくされました。また、1 番船の設計作業の遅れが 2 番船の出図遅れにも繋がり、2 番船の現場工程にも影響を与えることとなりました。

これにより、設計費の悪化、後続の現場工程における後戻り作業や工程遅れを取り戻すためのラッシュワークに伴う現場コストの悪化、設計の仕様変更や物量増加に伴う調達コストの悪化が発生する見込みとなりました。

2. 損失の計上について

上記のような状況下、今後発生する損失額が、平成 26 年 3 月期連結決算において引当計上した金額を大幅に超過することが見込まれるに至ったため、当第 2 四半期連結累計期間において、39,841 百万円を特別損失として計上いたしました。

3. 通期業績予想に与える影響

本件につきましては、本日(平成 26 年 10 月 31 日)別途公表いたしました「平成 27 年 3 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」における、平成 27 年 3 月期の連結業績予想に織り込んでおりません。

以 上